

## 神奈川県初記録のヒコサンセスジゲンゴロウ

佐野 真吾

Shingo Sano: A New Distribution Record of *Copelatus takakurai* M. Satô, 1985, from Kanagawa Prefecture, Japan

### はじめに

ヒコサンセスジゲンゴロウ *Copelatus takakurai* M. Satô, 1985 は体長 5 mm 程の小型のゲンゴロウ類で、薄暗い林道や湿地の周りにできる不安定な水溜りに好んで生息する(松井, 1996; 中島, 2005)。本種はこれまでに屋久島(木村, 1993; 林・藤原, 2007)、九州(森・秋山, 2002)、広島県(坂本・秋山, 2001)、静岡県(多比良・北野, 2001)など西日本を中心に記録されていた。今回、筆者は神奈川県にて本種を採集した。採集した個体は神奈川県および関東地方において初記録となるのでここに報告する。

### 採集記録

雄 3 個体, 神奈川県横浜市金沢区六浦町, 2011 年 4 月 29 日, 佐野真吾採集(図 1)。なお、採集された 3 個体のうち 2 個体は、神奈川県立生命の星・地球博物館(標本登録番号 KPM-NK 42840)および東海大学教養学部人間環境学科の北野忠教授の研究室に保管され、1 個体は筆者の手に保管される。



図 1. 神奈川県産ヒコサンセスジゲンゴロウ。

### 本種の同定

ヒコサンセスジゲンゴロウは、和歌山県・三重県を中心に確認されているナチセスジゲンゴロウ *Copelatus tomokunii* Gueorguiev, 1970 に近似とされている。森・秋山(2002)によると、ヒコサンセスジゲンゴロウの雄交尾器中央片は基部 3/8 付近からゆるやかに曲がる特徴を有しているのに対し、ナチセスジゲンゴロウの雄交尾器中央片はわずかに短く先端から 1/3 付近で下方にふくらみや屈折するとある。今回採集された個体からは「1/3 付近で下方にふくらみや屈折する」という特徴が見られなかった。また、原記載である M. Satô(1985)で示されている雄交尾器の図と比較すると、ヒコサンセスジゲンゴロウの特徴に合致した(図 2)。なお、採集した 3 個体はすべて解剖し雄交尾器を確認し、取り出した雄交尾器のうち 2 個体は針刺しスライド、1 個体はエタノールによる液浸で保管している。

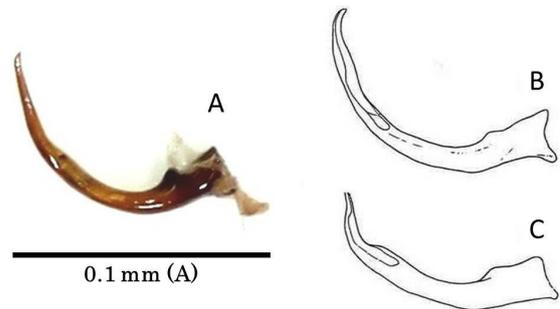


図 2. 神奈川県産ヒコサンセスジゲンゴロウの雄交尾器とセスジゲンゴロウ 2 種の雄交尾器の比較。A. 神奈川県産ヒコサンセスジゲンゴロウの雄交尾器 B. 福岡県産ヒコサンセスジゲンゴロウの雄交尾器 (M. Satô, 1985) より引用 C. 和歌山県産ナチセスジゲンゴロウの雄交尾器 (M. Satô, 1985) より引用

## 採集地と周辺環境

本種は横浜市金沢区六浦町にある水溜りから得られた。当地は谷戸状ではあるが水田や小川が現存するわけではなく、遷移や放棄で水域が消失した谷戸の地形のみが残る場所である。谷戸の西側の山からは少量の湧水が滴り落ちており、西側斜面の山裾は水が溜まりやすい地形になっている。本種を採集した水溜りは一見極めて小規模であり、水面には落ち葉が被り開放水面はほとんど見られなかったが、落ち葉を掻き分けると砂泥底で水が溜まっている状態であった(図3)。松井(1996)や坂本・秋山(2001)においても本種は小規模な水溜りの落ち葉の下から得られたことが報告されている。また、当地では本種とともにキベリヒラタガムシが多数見られたが、静岡県の産地でも同様な記載がされている(多比良・北野, 2001)。その他の水生生物は確認できなかった。

ちなみに、採集地の周辺地域に位置する逗子市池子や逗子市久木、鎌倉市十二所、横浜市金沢区朝比奈にも薄暗い落ち葉の堆積した砂泥底の水溜りがあるため調査を試みたが、キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus*



図3. 本種が採集された水溜り。

やカワゲラ類、甲殻類のミズムシ類は確認されたものの本種は得られなかった。なお、近隣地域である三浦半島の類似した環境でも採集を試みているが新たな産地は発見できていない。本種が好むとされる薄暗い落ち葉の堆積した小規模で不安定な水域という環境の他に限定された条件があるのか、偶然今回の発見地だけに生息していたのか定かでないが、いずれにしても希少性の高い種であると考えられる。

## 謝 辞

発見地を案内してくださった三浦半島昆虫研究会の橋本慎太郎氏、ならびに発表を勧めてくださった同研究会の柳本茂氏、また標本の保管を快く引き受けてくださった東海大学教養学部人間環境学科の北野忠教授および神奈川県立生命の星・地球博物館の苅部治紀氏に深く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 林 成多・藤原純一, 2007. 屋久島で採集した水生甲虫. 甲虫ニュース, 159: 7-10.
- 木村正明, 1993. ヒコサンセスジゲンゴロウ屋久島に産す. 月刊むし, (274): 5.
- 松井英司, 1996. 宮崎県でのヒコサンセスジゲンゴロウの新産地. 昆虫と自然, 31(12): 12.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 114pp. 文一総合出版, 東京.
- 中島 淳, 2005. 福岡県2例目となるチャイロチビゲンゴロウとヒコサンセスジゲンゴロウの採集記録. 甲虫ニュース, 151: 13-14.
- 坂本 充・秋山美文, 2001. ヒコサンセスジゲンゴロウの広島県における記録. 月刊むし, (367): 49.
- Satô M., 1985. The Genus *Copelatus* of Japan(Coleoptera, Dytiscidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama*, 17: 57-67.
- 多比良嘉晃・北野 忠, 2001. 静岡県引佐町でヒコサンセスジゲンゴロウを採集. 月刊むし, (370): 7-8.

佐野真吾：東京都市大学環境情報学研究所